

2013年7月2日開催 第580回番組審議会

■ 出席委員

荒巻裕委員長、櫻井美幸副委員長、上田理恵子委員、神谷徹委員、佐藤卓己委員、佐藤友美子委員、東野博昭委員、若菜英晴委員

■ 毎日放送出席者

河内社長 松島専務 榎本専務 梅本常務 豊田取締役 木田取締役
赤阪コンプライアンス室長兼番組審議会事務局長 柚山ラジオ局長
藤原ディレクター

◆ 審議議題

ラジオ番組「MBSヤングタウン 日曜日」(4月21日(日)放送分)について

◆ 審議事項

ラジオ番組「MBSヤングタウン 日曜日」(4月21日(日)放送分)について意見の交換をした。

各委員の主な意見は次の通り。

- * 二人の落語家が真剣に誠実に語り合っていて、感動した。心の底からのめりこんで少年みたいで、年は全然ヤングじゃないけど、「ヤングタウン」というタイトルにふさわしいと思った。
- * 会話自体はおもしろかったが、アクセントを入れるという意味で、リスナーからの反応があったほうが聞きやすかった。
- * 女性2人の役割分担がもうひとつよくわからない。もうちょっと違うキャラクターが入ってもいいのではないかな。ちょっとかき混ぜつつというほうが話が広がったんじゃないかと思う。
- * 吉竹アナウンサーは、何かアナウンサーとしての役割があると、はっきり田口さんと区別できたのではないかな。吉竹アナウンサーのキャラが出てこなかったのも、田口さんとごっちゃになってしまった。
- * 職場での師弟愛だとか仲間内の温かいコミュニケーションのありようというのは、文句のつけようのないいいことだが、壱家の世界というのが、ここで語られるような成功談のみで表現されているのかと感じた。

- * 残念だと思ったのは、転職したということで、辛かった部分とか、もっと深いところを聞いてみたかった。聞いていると鶴瓶さんのしゃべりが長い、ちょっと少なめにしてほしいかった。
- * 鶴瓶さん自身が年代を重ねて、今の話術とか芸というのがあってこそその90分だったと、感心した。落語という世界の中で真剣勝負を続けている、その緊張感と今の充実感がよく伝わってきた。
- * これまで築いてきたこと、自分が持っている知識とか力を、貯金箱から引き出すみたいに取り出して語っている。この番組だから何か創意工夫とか、新しいものを出そうとか、そういうものは実感できなかった。
鶴瓶さんを生かしてどういう番組をつくるのか、次の一手は何かということは、つくる側も考えていくべきだろう。

以上